

## 「閉じられた関係性の輪に風穴を」 山際真奈

美術館時代から、地域に根付いた形で取り組めればと思っていた、長期のアートプロジェクト。第1期の実施を終えて感じていることは、このプロジェクトを通して生まれた場所が、クリエイティブな表現や対話を媒介としたコミュニティ形成の土壌となり、「わたし」という閉じられた世界に、新たな接続の窓を開く機会になったのではということです。

普段は出会わない人と会ったり、それぞれの生きてきた時間を垣間見るような対話をしたり。一緒に手を動かして、言葉にはならない部分の思考や感情を共有したり。そのような、一見わかりやすくはないコミュニケーションの中で、ふと、それまで気づかなかった自身の内奥にある何かに気付いたり、喉につかえていたものが見えてきたり、あるいはこれまでと異なる時間軸で自分の生きる時間を捉えるようになっていたり。そういったことが、確かに起きていたことを実感しています。

でも、それは目で見るものでもないし、お腹がいっぱいになるものでもない。誰かにすぐ言葉で伝えられるようなことでも、説明だけで再現できるものでもなかったりします。であるからこそ、ご参加くださった一人一人にとって、かけがえない時間にもなりうると思いつつ、この「わかりづらいこと」を続けています。短期的に結果が出たり、目で見てすぐわかるようなものに比べると、その効果は理解されにくいことも想像に難くありませんが、アートプロジェクトのような、言わば「余分に見えるもの」の中で生まれる「関係性のゆらぎ」は、日々豊かさを生むと実感しているからです。

今回のハロー地球で、特に印象深かったのは、世代間交流の中で交わされた、無意識の振る舞いに関する対話。60代の女性の方が、自分がいかに緊張しながら生きてきたかということをお話してくださいました。人からの評価や視線、無意識に内面化してしまっていた。また40代の方からは、父親との関係性にどれだけ縛られていたか、そこに対してこれからどうしていきたいかという話も。毎回、様々なトピックを介して対話や表現をすることで、自分自身にとって本質的に価値のあること、差し迫っていることが垣間見え、深い部分での語らいの場が生まれていきました。

そんなことを振り返りながら、改めて思うのは、個々人が自身とのつながりを捉え直すような場に出会える事が、参加者にとっても、主催者自身にとっても、また地域の生態系にとっても、不可欠であるということです。「自分にとって本当に大切なものって何だったか?」と、そんなことを考えられるような機会があること、そのような本質的な問いを通して、誰かと出会えたり、自分自身と出会うこと。そんな場を、これからもつくっていければと思っています。

## 「共に過ごし、出会い直す、そのプロセス」 北澤麻希

「ハロー地球」という、実験的なアートプロジェクト。この企画は、山際真奈さんとの出会いと、そこから生まれた会話から始まりました。私たちは歳が離れているため、体験したかや過ごしてきた時間が異なり、お互いのことを時代や社会の背景を踏まえながら客観的に捉えられる、ちょうど良い距離感が。会話には、希望や温もり、疑問や怒り、不甲斐なさ、いろんなことが織り混じり、その一つ一つに対して、なぜそう思うのか?なぜそうなったのか?という疑問を投げかけ、語らいつつ、プログラムが少しずつ出来上がっていきました。

毎回来てくれた方もいれば、数回のみ来ていただいた方もいる中で、ある参加者の方が、「来る前に、行こうかどうか迷う」と。自分達で企画しながらも、私にもそういうところがちょっとだけありました。なんとなく人に会うことの怖さ。開示することの不安。でもその部分を開くことで、何かが軽くなることもわかっていました。私だけが感じていると思っていたことを、誰かも感じていること。そのこと自体を分かち合うことの、なんとなくホッとする感じ。凝り固まっている感情にも気づきながら、もしかしら、こういう時間こそが、生きることを支えてくれるものであり、大事なことなのではないかと、少しずつ確信するようになりました。

価値を生み出す時間でも、消費する時間でもない、だからこそラベリングのできない、生産性や経済だけを考えるならなくともいい時間だったのかもしれない。ラベリングができないことは不安になるし、果たして成果は出ているのかと気になってしまふ。ではなぜ生産性にとらわれてしまうのか、なぜ生きているだけで幸せだと思えなくなってしまうのかという問いに、それぞれの経験と照らし合わせ問いかけながら、出会って、話して、そして作って。何者かになるための場所ではなく、「わたし」のまま、「わたし」を解いていく時間となりました。

日常にある、家族や友人との時間、会話。本当は、どの時間にも、深いところで分り合えるチャンスがあるのに、表面的な会話で終わってしまったり、あるいはその時間さえ持てないことがあります。今まで「わたし」がこの地で過ごしてきた時間と場所、家族、学校や職場、立場で固定されていたことを流動的にする場が、「ハロー地球」にはありました。

日々流れる今の時間に向き合い、いつからでも、心地よい時間を自ら作り出すこと、そして周りの人とその時間を共有することを、これからもこの地球上で出来るように、何が出来るのか考え、行動しつづけていきたいと思います。

## “部員” のこえ

こどもと一緒に創造的なWSに参加するのは初めてだった。こどもを抜きにしても楽しめたと思うが、今この未就学タイミングでこのプログラムに参加できたことを有意義だと思っている。自分の社会への向き合い方が、ゆるく定まらないままでも、アウトプットを増やそうと思った。参加者全体の仲まい、自分からはでない発想・企画、距離感、許容されている感、ちょうどいい関係も印象に残っている。(40代女性)

性別、年代、バックボーンの違う参加者の方々とのコミュニケーションはとても良い機会でした。大袈裟に言うとか小さな異文化交流会であったとも思います。参加する前の自分とはきっと別の自分になっているのだろうな、と。(30代男性)

上の世代の方と話すことに若干抵抗感があったけれど、参加してからは積極的に上の世代の方とも話したい、と思うようになった。(10代女性)

主催：〇〇Emergence Lab〇

Art Project: Hello, the Earth! 2024 Report

# 2024 Report

# 「わたし」をつくる

# リズミカルアーツ

# 第1回～7回

# Report!

「ハロー地球 未来をつくる、リベラルアーツ部」は  
 信州須坂で始動したアートプロジェクト  
 古民家のアトリエで 10代～60代の“部員”が 様々な表現と対話を通して  
 日々の生活と そこから見えてくる世界を見つめ直し  
 生きていきたい未来を想像する場を 半年間にわたって作りあげました

## 第1回 2024年6月9日(日)

### わたしはどこにいる？

#### 言葉のワークショップ

初の顔合わせは、「詩」を通した自己紹介ならぬ自己交流会。自分の言葉と誰かの言葉をつないで「連歌」のように詩をつくり、ビニール傘にペイント。「わたし」を作り上げてきた記憶や物語を手掛かりに、言葉で自らを守る「言葉の傘」をつくりました。  
 締めくくりは、プロジェクト期間中、半年寝かせる梅ジュースづくり。子ども大人も一緒に、いよいよ旅のはじまりです。

ゲスト：詩人・あさのかすみ



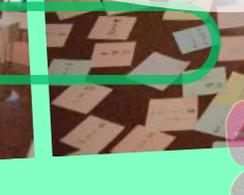
## 第5回 2024年10月13日(日)

### 地球の現在地はどこ？

#### Deep Time Walk

イギリスで開発された、4.6億年の地球史に出逢いながら4.6kmの道のりを歩くプログラム・Deep Time Walkを、舞踊とのコラボレーションによって再編成。高原を連れ立てて歩く道中、「月の誕生」、「生命の誕生」、「カンブリア大爆発」の地点では、鮮やかなダンスパフォーマンスが行われました。様々な変遷の中で、今の姿まで辿り着いた地球の不思議を身体いっぱい感じながら、現在へと帰還。これまでに地球上で起きたたくさんの「偶然」が重なって、私たちがつくる「必然」になっている奇跡を垣間見る時間となりました。

ゲスト：舞踊家・鈴木彩華



## 第6回 2024年11月10日(日)

### コミュニティってなに？

#### 記憶の模型ワークショップ

生まれ育った場所の記憶は、誰にとっても特別なもの。匂いや色、音や味を手がかりに記憶の中の場所を掘り下げ、そこに付随する様々な「集団」についても振り返りながら、コミュニティが持つ包摂と排他の矛盾について考えました。最後は、わたしたちの身体の基本単位である、細胞の細胞膜が「閉じていながら開いている」ように、いつでも入ったり出たりできるような構造の場所やコミュニティの在り方は可能なのか、木片の模型を使いながら想像。童心に帰って積み積みしながら、とんがった建物が次々に…。

開催期間：2024年6月～2025年1月(月1回・13:00～16:00)

開催場所：Atelier Crater Circus (長野県須坂市臥龍2-18-3)

参加人数：15名 (10代以上、小学生は保護者同伴)

参加料金：1000円 (高校生以下無料、ドリンク付)

主催：北澤真希、山際真奈

協力：須坂市地域おこし協議会



タネジュース動画



## 第3回 2024年8月25日(日)

### 価値ってなに？

#### 哲学対話ワークショップ

「経済」と「価値」をテーマに、白熱哲学対話。まずは一人一人が価値に関する問いを提案し、この日は「価値のない世界はありえるのか？」という問いについて対話することに。答えのない問いについて言葉を紡ぎながら、日々の振る舞いに「常に既に」現れる価値とは一体何なのか、対話を続けました。最後は言葉にならない想いを石粉粘土で練り上げ、問いを抱えたまま帰途に…。

ゲスト：哲学者・石山秀明

## 第4回 2024年9月15日(日)

### 表現ってなに？

#### 日々のテキスタイルワークショップ

古今東西、願いや祈りをはじめ、生活にとって重要な表象が織り込まれてきたテキスタイルに焦点をあて、版画技法を用いた作品を制作。自分自身にとって大切なモチーフを描き、掘り、刷りながら、それぞれの「生活」にまつわる言葉をゆるやかに交わします。「手」「芋蔓」「切り株」「葡萄」「詩」など、様々な形が生み出される中で、日々の営みに、ささやかな美しさを見つけたいと改めて感じる回に。

## 第7回 2024年12月15日(日)

### 身体はどこまで？

#### 身体と思考をめぐるシアターワークショップ

フィジカルシアターのワークを体験しながら、身体の「くせ」にアプローチ。様々な感情を身体だけで表したり、最後はオデュッセイアにも挑戦。身体を開いた後は、多様な現代アート作品の対話鑑賞で思考の「くせ」も垣間見ながら、身体も頭もへとへとになるスパルタな回になりました。(休憩時間に、お一人が持ってきた「パースデーサンングラス」を一人一人かけてキメるという謎ゲームが始まる“ハイ”ぶり。)自分自身の中に溜め込まれた「くせ」に気づくことで、意識していなかったものが浮かび上がる、静かな変革の時間に。

ゲスト：アーティスト・赤須秀人

## 第8回 2025年1月26日(日)

### これからどうする？

#### おわりははじまりセレモニー

最終回は、食べ物や飲み物を持ち寄ってのポットラックパーティー。手作りのお団子や焼き菓子、コーン茶など、個性が光るお茶会を楽しみながら、この半年間を振り返り、語り合う時間。これまでの時間と、これからの時間に想いを馳せながら、コラージュ作品も制作しました。お一人が、「不思議な関係性の寄り合い」と言ってくださったのですが、「仕事」や「友達」のようにカテゴライズしない関係性の中で、自分ではない誰かと、これまで生きてきた時間の記憶を交換する場になったことを実感する最終回。一人一人が、新たな旅路へ出発です。



開催概要